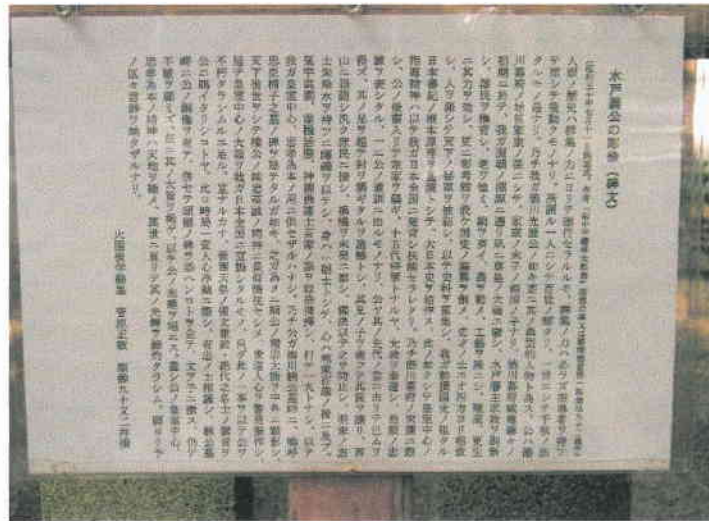


- ▶ 水戸黄門で有名な徳川光圀の銅像が楠木正成墓所の傍らにあります。光圀は水戸藩主を辞してから西山荘に隠居し、大日本史の編纂を行いました。楠木正成の墓碑「嗚呼忠臣楠子之墓」を建立した功績を追慕して、昭和30年(1955)7月に銅像が完成しました。



- ▶ 坂本龍馬が詠んだ歌の中に次の句があります。

湊川にて

月と日のむかしを しのぶみたと川
流れて清き 菊の下水

宮地佐一郎氏の著作「龍馬の手紙」(講談社学術文庫、PHP文庫)で、次のとおり解説されています。

「湊川にて」の歌は、龍馬が「新葉集」を愛読していた痕跡をよく残していると思います。菊の下水は「菊水」で、つまり楠木正成の家紋を踏まえた歌なんですね。正成は湊川の戦いで戦死します。湊川の水が流れて清い菊の下水になっていると言っている。歌のこころは正成の残した志が今もなお清く流れている、それは湊川に流れているということだけでなく、自分の心の中にも流れているということになると思います。だからこの歌は叙景というよりはむしろ龍馬自身の志を述べた歌だと思えます。

勝 海舟日記では、文久2年(1862)12月25日に「楠公の墓を拝す」と記してあります。その4日後、12月29日「千葉十(重)太郎来る。坂下(本)龍馬子来る。京師の事を聞く。」とあります。

- ▶ 「中国の国父」と慕われ中国辛亥革命を指導した革命家孫文の胸像です。大正12年(1923)、来日していた孫文は、馮玉祥の招請で北京へ向かう途中、11月24日神戸に立ち寄りました。11月28日、孫文は神戸高等女学校講堂で「大アジア主義」の講演を行い、西洋霸道ではなく東方王道の干城となることを訴えました。



40 伊藤博文像跡台座／大倉山公園

神戸市中央区楠町7-4

- ▶ No.35で紹介のとおり伊藤博文像が建てられたものの、すぐに姿を消してしまい、その後は建てられないままでした。
明治42年(1909)10月26日、伊藤がハルビン駅で暗殺されると、親交のあった神田兵右衛門等が主唱し、再度、神戸に伊藤博文の銅像を建てるのが計画されました。
これを聞いた政商大倉喜八郎は、自分の神戸別荘地を寄付しました。
明治44年(1911)12月26日、銅像が完成され、別荘地が大倉山公園として開園します。
さて、伊藤博文像の台座には、階段状ピラミッドのモチーフが使われています。
伊藤が初代内閣総理大臣であったことから、このモチーフは国会議事堂の屋根の形に採用されることにもなります。
この伊藤博文の銅像も、戦時中の金属供出のため現在は姿を消しています。
銅像の台座跡だけが残っており、神戸市では伊藤博文像の再建の声も上がっているようです。



国会議事堂

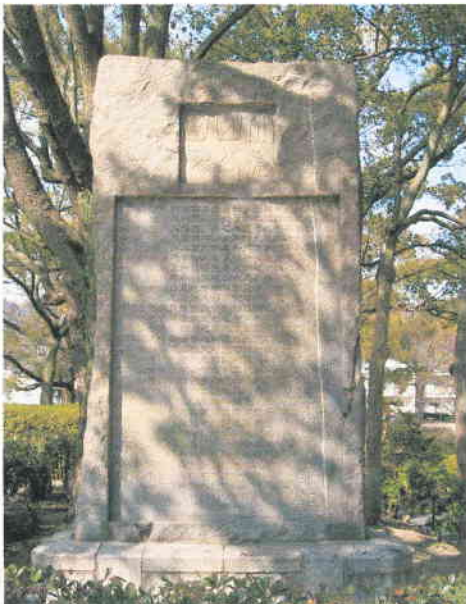


伊藤博文像(古写真)

41 大倉喜八郎別荘跡／大倉山公園

神戸市中央区楠町7-4

- ▶ 大倉喜八郎は、天保8年(1837)9月24日に生まれ、昭和3年(1928)4月22日に他界しました。
日本の中堅財閥である大倉財閥の設立者で、明治・大正期の実業界を牽引しました。
庶民からは“死の商人”と忌み嫌われましたが、公共事業や教育事業には惜しみなく私財を投じています。
鹿鳴館、帝国ホテル、帝国劇場などを渋沢栄一らと共に、設立したことで有名です。
現東京経済大学の前身である大倉商業学校の創設者でもあります。
また、喜八郎の息子 大倉喜七郎は、ホテルオークラの創始者です。



大倉喜八郎

42 坂本龍馬と神戸海軍操練所記念碑／大倉山公園

神戸市中央区楠町7-4

- ▶ 神戸にある全国各地の県人会が、故郷の樹木を植えたり、石碑を建てたりしています。高知県のコーナーでは「坂本龍馬と神戸海軍操練所記念碑」が建てられています。



43 富士山之碑／大倉山公園

神戸市中央区楠町7-4

- ▶ No.42の関連で珍しい碑をご紹介します。静岡県のコーナーに立てられている「富士山之碑」です。



44 安徳天皇行在所址／荒田八幡神社

神戸市中央区荒田町3

- ▶ このあたりは、平安末期、平清盛の弟頼盛の邸があったとされる場所です。治承4年(1180)、安徳天皇が一夜滞在されました。もともと高田神社と呼ばれていましたが、やや西にあった八幡神社とあわせて、荒田八幡神社となりました。



45 福原遷都八百年記念碑／荒田八幡神社

神戸市中央区荒田町3

▶ 昭和55年神戸史談会により建てられた福原遷都八百年記念碑です。

治承4年(1180)6月、平清盛の強い意向で、現在の神戸市兵庫区平野の地に、天皇・上皇以下が大挙して訪れました。都造りが計画されますが、途中から反平氏勢力の拳兵がはじまり、遷都反対も根強く、未完に終わります。約170日の後、京都に帰還します。これを福原遷都とよんでいます。



46 平 清盛別荘(雪の御所)跡

神戸市兵庫区雪御所町2

雪見御所 (ゆきみのごしよ)

平安時代末期、平家一門が日宋貿易の港である大輪田泊を見晴らす福原の地を領有し、ここに多くの邸宅を構えた。治承四(一一八〇)年、政権の強化を図った平清盛が孫の安徳天皇を奉じて都造りをはかったのが「福原遷都」である。しかし都造りは途中で頓挫、半年で平安京に還都したため実態としての都は完成しなかった。

『平家物語』などには平清盛が福原の地にくっつかの邸宅を持っていたことを伝える。そのひとつが「雪見御所」で、その名を伝える雪御所町に存在した可能性が高い。ただし町名のもとになった古い字「雪御所」の範囲は現在の湊山町南半が過半を占める。西が石井川、東および北は天王川の西のほとりを北上し、そして西へと弧状にのびる古道により画される範囲になる。南限は湊山小学校の敷地を北東隅から南西隅に横切る方向にのび、その南は「川原」という字名になる。この範囲には一町(約一〇九メートル)四方の屋敷地が収まる。当時の貴族の邸宅は広い屋敷地の北寄りに建てられるのが一般的で、南に庭園が広がる。したがって雪見御所の屋敷建物が存在するのは湊山小学校の敷地よりも北側ということになる。

一九八六年に湊山小学校の校舎建設に先立ち行われた発掘調査(雪御所遺跡第一次発掘調査)で確認された石垣のひとつはこの南の字境に一致する。これは雪見御所の南を画する石垣、またはそれを踏襲する字境の石垣である可能性が考えられる。

雪見御所の北に安徳天皇が「福原遷都」の半年を過ごした「本皇居」
 「平野殿」のあったこと、また清盛邸の近隣に子息宗盛邸のあった可能性が当時の貴族の日記の記述などから知られる。発掘調査によっても雪御所町の東にあたる上祇園町の祇園遺跡で平安時代末期の貴族の邸宅あとの庭園の存在が確認されている。古記録と発掘調査の結果から、この地に「福原京」の時期を中心とする平家の邸宅がいくつも存在することを推測することができる。ここ「平野」の地はまさにその名の示すとおり「平」家の本拠があった「フィールド(野)」といえるだろう。

この「雪見御所跡」の石碑は、明治三十九年に湊山小学校の校庭より掘り出された、往時の御所の庭造りに使用されていたと考えられる石に、明治四十一年に湊山小学校三代校長篠崎三郎氏が、生田神社宮司田所千秋氏の揮毫を得て、設置したものである。

